地震対策

地震発生

最初の大きな揺れは約1分間

- 身の安全を確保する

1〜2分

揺れがおさまったら

- 火元を確認　火が出たら、落ち着いて初期消火
- 家族の安全を確認　倒れた家具の下敷きになっていないかを確認
- 靴をはく　家の中はガラスの破片が散乱。靴や厚手のスリッパをはく
- 避難するときは、屋根瓦の落下・ブロック塀の倒壊・自動販売機などの転倒に注意

3分

みんなの無事を確認 火災の発生を防ぐ

隣近所に声をかけよう
- 要配慮者の安全確保　隣近所で助け合う
- 行方不明者はいないかの確認　●ケガ人はいないか

出火防止 初期消火
- 消火器を使う　●余震に注意
- 漏電・ガス漏れに注意　電気のブレーカーをおろす・ガスの元栓を閉める

5分

ラジオなどで正しい情報を

- 防災機関、自主防災組織の情報を確認
- デマにまどわされないように　●避難時に車は極力使用しない
- 電話は緊急連絡を優先する

10分▼数時間▼3日

協力して消火活動、救出・救護活動を

- 水、食糧は蓄えているものでまかなう　最低限3日間（推奨7日間）の飲料水と食糧の備蓄をしておく
- 災害・被害情報の収集　●壊れた家に入らない
- 近くの人の救出・救護

屋内にいた場合

家の中
- 揺れを感じたら、身の安全を確保し、すばやく屋外の安全な場所へ避難する。
- 火の確認はすみやかにする。（コンセントやガスの元栓の処置も忘れずに）
- 乳幼児や病人、高齢者など要配慮者の安全を確保する。
- 裸足で歩き回らないようにする。（ガラスの破片などでケガをする）

集合住宅
- ドアや窓を開けて避難口を確保する。
- 避難にエレベーターは絶対に使わない。炎と煙に巻き込まれないように階段を使って避難する。（煙などできる限り吸わないように、姿勢を低くし、口をハンカチなどで軽くふさぎ、避難をする）

屋外にいた場合

路　上

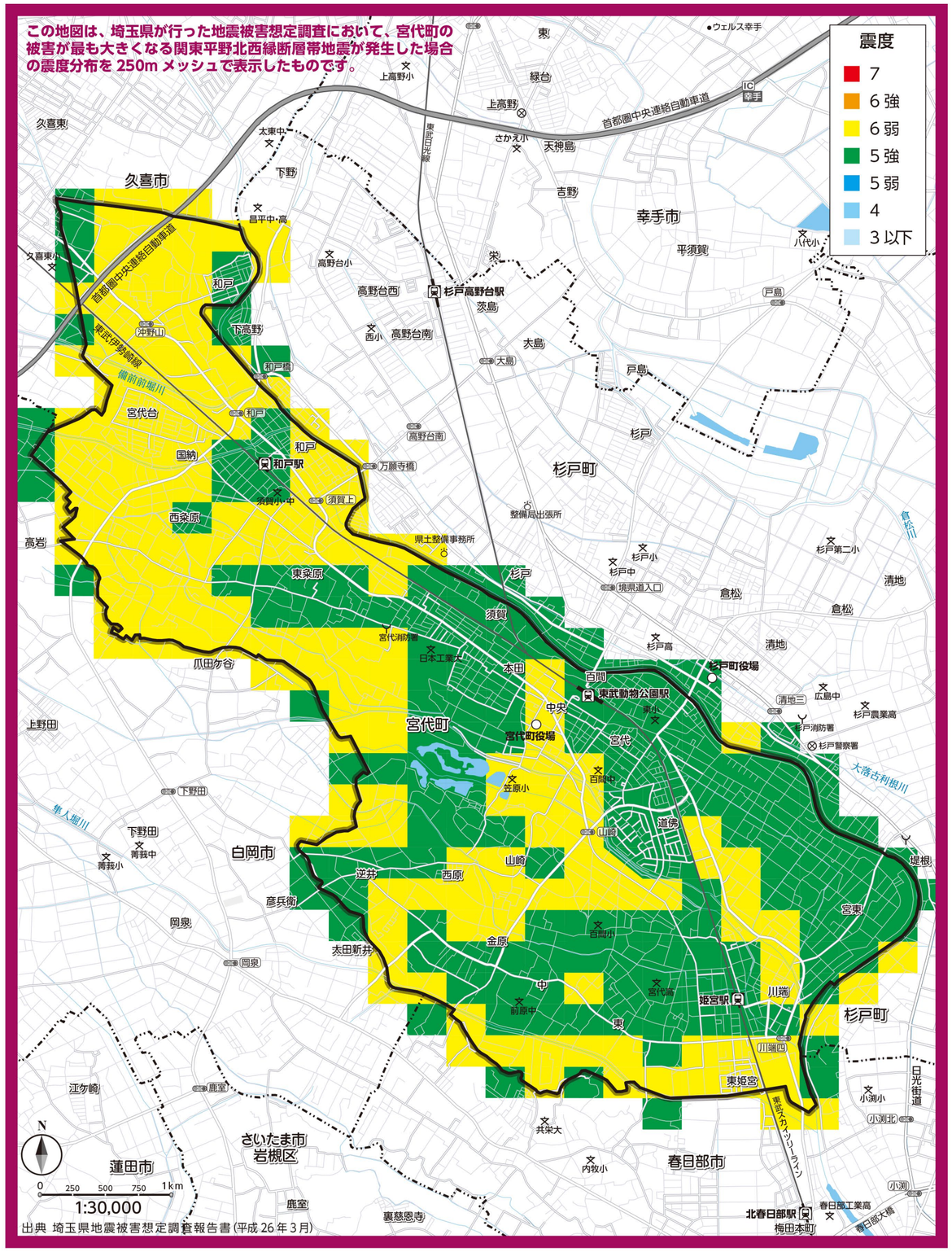
- その場に立ち止まらず、窓ガラス、看板などの落下物から頭をカバンなどで保護する。
- 建物から離れ、安全性の高い場所へ移動する。
- ブロック塀や自動販売機などには近づかない。
- 倒れそうな電柱や垂れ下がった電線に注意する。

車を運転中
- ハンドルをしっかりと握り、徐々にスピードを落とし、緊急車両などの通行スペースを確保し、道路の左側に止め、エンジンを切る。
- 揺れがおさまるまで冷静に周囲の状況を確認して、カーラジオで情報を収集する。
- 避難が必要なときは、キーはつけたまま、ドアロックもしない。車検証などの貴重品を忘れずに持ち出し、徒歩で避難する。

山沿い・谷沿い
- 地震により土砂災害が発生するおそれがあるため、安全な場所へ避難する。

揺れやすさマップ

埼玉県は地震防災対策として、現時点で最新の予測手法で被害予想調査を行っていますが、**実際の震災では常に想定を超える可能性がある**という意識を持ち、日ごろから大震災への備えをしておきましょう。



出典 埼玉県地震被害想定調査報告書（平成 26 年 3 月）